

協働を通じたカリキュラム作りの指南書!

学校と専門家が協働する

—カリキュラム開発への臨牀的アプローチ—



天笠茂 著

A5判・約300頁
定価：本体2,700円+税

- 立場の異なる相手と「つながる」ためにどのような取組が有効か、効率的な協働のための、信頼を得るにはどうしたらよいか、という視点から解説。
- 著者が携わった豊富な事例を掲載し、各事例のプロセスに対し、著者の一口コメント「この点が協働のポイント」を記載。

まえがき

学校に関心をもち、その教育の在り方について、組織の実像を明らかにすることを通して探求する。学校経営学を自ら専門とする立場から、学校における協働について問い続け、実際に様々な関わりも持ち続けてきたことをふまえ、学校との関係づくりをめぐる思索を重ねてきた一端を著したのが本書である。
(略)

本書の全体構成は、次の通りである。

- 第1章 学校との協働をめぐる では、新たな局面を迎えた“協働”について、その意味と意義を探ってみた。
- 第2章 学校経営をめぐる実践・研究への臨牀的アプローチ では、どのように学校に接するか、その基本的な考え方や方法について考察した。
- 第3章 特色ある学校のマネジメント では、20世紀末から21世紀初頭にかけて、教育改革の動きとして、小学校に英語導入の検討、オープンスペース、多目的スペースの導入、チーム・ティーチングの導入を取り上げ、学校の実際の姿、教職員の意識の揺れ動きを追ってみた。
- 第4章 組織の継承とスクールリーダーシップ では、第3章での論述をもとにしてスクールリーダーに焦点を当て、そのもとで校長の姿を描き出してみた。
- 第5章 研究開発学校におけるカリキュラム開発へのアプローチ では、カリキュラム開発を課題とする研究開発学校にいかにかかわったかをふまえ、協働のポイントをあげてみた。

本書には、協働による関係づくりを追い求め、カリキュラム開発をはじめ授業や組織の在り方を探ってきた、文字通り、共に汗を流してアイデアを紡ぎ出してきた多くの教育実践に携わってきた方々への報告、そして、お礼の意味を込めさせていただいた。本書は、これら方々の存在なくして、また、協働なくして著すことができなかったことを強調しておきたい。

しかし、本書は、これまでの歩みを振り返るにとどまるものではない。協働して紡ぎだしたメッセージが、現在、カリキュラム開発に携わっている方々に、さらには、これからその輪に加わりようとしている方々へと継承されることを願っている。本書が、まさに第一線で教育に携わっておられる方々に元気をもたらし、学校における協働をめぐる新たな実践を開く役割が果たせればと念じている。

最後に、本書の編集にあたり、編集の労をとっていただいた、北野家稔、上田浩一両氏をはじめ第一法規の皆様にも、心より感謝申し上げます。

2016(平成28)年3月31日
天笠 茂



第一法規

東京都港区南青山2-11-17 〒107-8560
<http://www.daiichihoki.co.jp>

Tel. 0120-203-694
Fax. 0120-302-640

内容構成

まえがき

第1章 学校との協働をめぐる

- 1 学校を持続可能な社会組織に
- 2 多様な専門性を組織化する学校の創造：チームとしての学校
- 3 組織の体系としての学校を知る
- 4 教育実践と教育研究との協働による知の創造—授業を共通言語にした関係づくり—

第2章 学校経営をめぐる実践・研究への臨 床的アプローチ

- 1 学校学の構築に関する課題
- 2 教育課程の創造と学校経営—その到達点と課題—
- 3 臨床科学としての教育経営学
- 4 臨床的アプローチの可能性
- 5 臨床的アプローチの研究事例をもとに—カリキュラムマネジメントに関わる3つの事例—
- 6 「関わる」立場から—学校の現場に実際に入り、コンサルテーションをして—

第3章 特色ある学校のマネジメント

- 1 教育改革とそれぞれの学校の事情
- 2 国際化に対応するカリキュラム開発に取り組む学校の経営
 - <1> 特色ある学校づくりと学校の教育目標の設定
 - <2> 外国語教育とカリキュラム開発
 - <3> 外国語教育への対応と校内研修
- 3 ティーム・ティーチングの導入に取り組む学校の経営
 - <1> ティーム・ティーチングを育てた学校
 - <2> 校長にとっての自校の実践史
 - <3> ティーム・ティーチングに取り組む学校の経営診断
 - <4> ティーム・ティーチングを導入した中学校の経営診断
- 4 新しいタイプの施設の運用をはかる学校の運営
 - <1> 学校施設に対する抵抗感のマネジメント
 - <2> 新しい教育理念の受容と教育目標
 - <3> 新しいコンセプトを取り扱う経営手法
 - <4> 校内研究・研修の手法の開発
 - <5> 地域の人々との連携による学校づくり

第4章 組織の継承とスクールリーダーの リーダーシップ

- 1 組織を継ぐということ
- 2 校長になるということ
 - <1> 着任直後の危機管理
 - <2> 新任校の一ヶ月
 - <3> 校内研究・研修の引き継ぎ
- 3 スクールリーダーの交代
 - <1> 指導組織の改善に取り組んだ小学校—組織の休養と校内研究・研修—
 - <2> ティーム・ティーチングから総合学習への展開—ある二代目校長の取り組み—
 - <3> ある中学校のティーム・ティーチング
 - <4> 教頭が交代するという事
- 4 教育イノベーションの継承と転換
 - <1> 学習環境整備とそのマネジメント
 - <2> フレキシブルな日課表のマネジメント
 - <3> 伝統校の重み—教育課程開発に取り組むある学校の場合—
 - <4> “校内研修会”の開催にみる校長の戦略・戦術—ティーム・ティーチングの日常化をめざすある小学校の場合—
- 5 組織の継承にみる校長のリーダーシップ
 - <1> 組織の継承にみる校長のリーダーシップ
 - <2> 校長を追って

第5章 研究開発学校におけるカリキュラム 開発へのアプローチ

- 1 カリキュラム開発へのアプローチ
- 2 千葉県東金市立鶴嶺小学校
- 3 福岡県北九州市立祝町小学校
- 4 新潟県上越市立大手町小学校<教育課程の研究開発—7単元群の教育課程から資質・能力ベースカリキュラムへ—>
- 5 広島県呉市立五番町小学校・二河小学校・二河中学校<9年カリキュラムを柱に小中一貫教育>
- 6 大阪府高槻市立第四中学校・赤大路小学校・富田小学校<中学校区による社会参画力の育成>

詳細・お申し込みはコチラ

<クレジットカードでもお支払いいただけます>



第一法規

検索

